



熊本県版

No. 243

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

熊本県本部

〒862-0954

熊本市中央区神水

1-30-7 コモン神水

☎096-381-1807

2022年度治安維持法同盟熊本県本部総会議案

改憲を許さず、治安維持法体制に決着をつけ

平和と暮らしまもる政治への転換を(案)

一、私たちが取りまく主な情勢

参院選後の新しい政治対決

参議院選挙の結果、改憲勢力が3分の2の議席を獲得し、戦後初めて衆参両院とも改憲勢力が改憲発議に必要な3分の2を占めるといっかつかつてない危険な事態に至りました。

岸田首相は早速、「改憲」を国民が信認したかのように言い、「改憲」を急ぐ考えを表明しています。しかし今回自民党が比例で獲得したのは全有権者の16・8%にすぎません。何より自民党は比例区では1議席後退しており、議席を伸ばしたのは32の1人区を含む選挙区だけです。つまり前回、前々回、

運動の基本

- ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために
- 一、治安維持法体制の復活に反対する。
- 二、国は戦前の治安維持法が人道に反する悪法であることを認めること。
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

治安維持法同盟熊本県本部

32のすべての1人区で市民と立憲野党の共闘が成立し、11勝10勝をあげたのに対し、今回は、連合の揺さぶりに一部野党が動揺し、市民と立憲野党の統一が11選挙区にとどまり、そのうち3県でしか勝てず自民党に大勝を許したというのが実態です。

改憲、大軍拡を阻止するためにも、市民と立憲野党のしっかりとした共闘体制の再構築が求められるのではないのでしょうか。

ロシアのウクライナ侵略

ロシアのウクライナ侵略が長期化し、罪のないウクライナ

国民の犠牲は目を覆うばかりです。ロシアは侵略を直ちにやめて撤退せよの声と運動を強めましょう。

大軍拡、敵基地攻撃能力、核共有、9条改憲

この惨劇を「戦争をする国づくり」の絶好のチャンスとばかりに自公政権与党だけでなく維新の会や国民民主党までが9条改憲、敵基地攻撃能力保有、軍事費倍増・大軍拡、核共有を声高に叫んでいます。「再び戦争と暗黒政治を許さない」と活動してきたわが治安維持法国賠同盟の出番です。

おびやかされる命・くらし

軍事費倍増は今よりさらに5兆円を軍事費につぎ込むことであり、その財源は国債増発、消費税増税、または暮らし・福祉予算の大幅削減しかありません。すでにコロナ禍での困窮に加え物価急上昇の中での年金引き下げ、高齢者医療費2倍化など国民の暮らし、福祉は大変です。これ以上暮らし、福祉を悪化させないために奮闘しなければなりません。

二、この1年の取り組み

① 結成以来の目標Ⅱ「2000人の県同盟」達成

県同盟は、昨年の県本部総会から増減差し引いて29人の

増をかちとり、史上最高の209人になりました。これは1979年に故西里竜夫さんらが90人で県同盟を結成した時の目標であった「200人」の壁を初めて突破したもので、画期的な成果です。

40年来の目標を達成した今、今総会で新たな目標を確認し、さらに前進しなければなりません。

新たな前進、飛躍のためには県本部および支部の体制強化と活動改善が必要です。

② 国会請願署名

一方、今年の国会請願署名は昨年の6割近くにとどまり、大きく落ち込みました。全国的にも初めて10万筆を割り込み、抜本的な強化が求められます。

5月11日に行われた今年の国会請願行動には満100歳の弾圧犠牲者・菱谷良一さんが北海道から車いすで駆け付け参加者を激励するとともに、立憲民主党の国会議員などと懇談し、今の自公政権による戦争への道を食い止めるため奮闘するよう訴えました。熊本県本部から小田憲郎会長が参加しました。

ただ、昨年の6割にとどまったとはいえ、それでも九州各県の中では断トツの署名数で、この成果を勝ち取ることがで

きた要因は、(イ)「二人20筆」の目標を明確にし、多くの会

員のみなさんが周りの友人、知人にコツコツと訴えて地道に署名を集められたこと、(ロ)それを確実に実現するために県本部役員会を定例化し、「不屈」県版の定期発行を守り、毎月署名用紙と返信用封筒を届けたこと、(ハ)毎年協力していただいている建築労組、県民医連、建交労、県商連、新婦人、原水協など労組・民主団体のみなさんが例年以上に奮闘して署名を集めていただいたこと、などによるもので、改めて感謝申し上げます。

③ 天草支部を結成

県同盟3番目の支部として21年11月、天草支部を14人で結成しました。支部では支部結成と併せて映画『わが青春つぎとも―伊藤千代子の生涯』の上映実行委員会結成も確認。ただ、22年3月に天草市議選、7月参議院選挙とつづぐため、並行して取り組むことは力量的に難しいと判断し、上映会は22年秋に行うことになりました。

④ 映画『伊藤千代子の生涯』製作・上映運動

映画『わが青春つぎとも―伊藤千代子の生涯』製作・上映運動については国賠同盟県本部と人吉球磨支部が上映債券(1口10万円)をそれぞれ1口ずつ購入したのに加え、熊

本県建築労組と熊本県民医連もそれぞれ1口ずつ購入して計4本確保することができました。

5月1日に熊本市国際交流会館で無料試写会(84人)を実施したのを皮切りに、5月28日熊本市男女共同参画センター「はあもにい」で午前、午後の2回(計154人)、5月29日に荒尾市総合文化センターで1回(63人)、6月4日にあさぎり町「せきれい館」で昼、夜の2回(計202人)それぞれ上映会を行い、合計503人が鑑賞しました。

鑑賞した人たちは一様に「貧しい人がいなくなる世の中、女性が人間として正當に認められる世の中をめざしてひたむきにたたかいた抜いたその一途な生き方に感動した」「特高の拷問に屈せず非転向でたたかいた姿に感動した」「この時期に、この映画を作り見る機会を作ってくれたことに感謝します」「ありがとうございました」などの感想を寄せていました。

この上映運動を通じて12人が新しく国賠同盟に加入しました。

⑤ 選挙闘争

▼衆議院選挙

県同盟としては初めて、国政選挙にあたって「国賠同盟

の要望書」を市民と野党の統一候補事務所に届けて懇談し、1区浜田大造（立民）、2区橋田芳昭（共産）、3区後藤好世（社民）、4区矢上雅義（立民）の全候補が賛意を示したため全候補に「祈必勝」の為書きを贈り、激励しました。

ただ県選出国会議員の中で唯一、国賠同盟の国会請願の紹介議員を引き受けていた矢上雅義氏が議席を失ったのは国賠同盟にとって痛手でした。

▼地方議員選挙

県内の地方選挙に立候補した国賠同盟会員全員に「祈必勝」の為書きを贈り、激励しました。この間、立候補し当選した会員は次の通りです。玉名市前田正治議員、長洲町林敏哉議員、八代市橋本徳一郎議員、和水町笹刈賢吾議員、芦北町坂本登議員、天草市養田庸子議員、菊池市東奈津子議員。

⑥ 治安維持法犠牲者、先覚者を顕彰する活動

2月13日、孟宗忌（徳永直を偲ぶ会）（熊本市）

3月6日、多喜二・百合子に学び語る早春文化の集い（人吉市）

3月19日、田添鉄二顕彰碑献花（熊本市）

⑦ 会費100%納入を基礎にした財政強化

会員の大幅拡大により県同盟の財政基盤が強化され、

県本部役員の交通費実費支給や宣伝物作成も無理なくできるようになりました。また、中央本部への未納も完全になくなり、『不屈』県版の毎月発行も順調にできるようになりました。

会費納入は、請求書を「再送」「再々送」と3回発送し、75%まで改善することができました。

三、今年度の活動方針

① 国会請願署名

目標は今年こそ5,000筆達成を目指します。

今年も会員一人一人が「一年間で20筆」の署名を集めることを目標に奮闘しましょう。

また、友好協力団体への協力をお願いを年内早くから取り組みます。

昨年も強調しましたが、国賠同盟の署名活動は、県民一人ひとりと向き合って、治安維持法が猛威をふるった戦前の軍国日本がいかにかにひどい時代であったかを語り、政府に治安維持法が人道に反する悪法であったことを認めさせ、その戦前の日本を「美しい国」と偽り、憲法を変えて軍国日本を復活させ、「戦争する国づくり」をすすめる

アベ・スガ・岸田自公政治をやめさせる活動です。敗戦後77年を経過し、国民の圧倒的多数が戦後生まれで、「戦争を知らない世代」になった今日、私たち治安維持法国賠同盟の存在と、その活動はきわめて重要な役割をもっています。

一人ひとりの会員が常に黄色い署名用紙をもって、まわりの人に訴え、署名を地道に集めましょう。

また、従来からの友好団体への働きかけを強めるとともに、「市民と野党の共闘」の前進の中で広がった条件を生かした新たな協力団体を広げる取り組みをひきつづき強化します。

② 治安維持法犠牲者、先覚者を顕彰する活動

県本部顧問の梶原定義氏が熊本の治安維持法犠牲者の名簿と足跡をまとめた「改訂『地下水、その噴き出するを願って』」の普及にひきつづきとりくみます。

一昨年12月の「顕彰ツアー」のあと、「この次は私も参加したい」という声が多数寄せられていましたが、映画の取り組みなどで実施できませんでした。今年はずいぶん、いろいろ工夫しながら大逆事件犠牲者、治安維持法犠牲者等先覚者を顕彰する「顕彰ツアー」を計画したいと思います。

③ 会員拡大の新たな目標と支部結成

(1) 県同盟結成以来の目標であった「2000人」の同盟建設を達成した今日、今後の拡大目標をつぎのように設定します。

① つぎの第41回大会（2024年6月予定）までの目標 300人

② 来年の県本部総会（2023年8月予定）までの目標 250人

(2) 県同盟の今日の前進が2016年の「人吉球磨支部結成」を契機に始まったことはご承知の通りです。その後、八代支部（2018年）、天草支部（2021年）とつづき順調に前進してきました。

この流れを受け継ぎ次の県総会までに菊池（菊池山鹿）支部結成をめざします。

(3) この間、最も多くの会員が居住する熊本市における支部結成を方針として掲げてきましたが依然として着手できていません。

他の民主団体の例なども参考にしながら、熊本市の組織の在り方を研究します。

映画『伊藤千代子の生涯』上映運動とも連携して条件のあ

る地域での支部結成にとりくみます。

④ 国政選挙で「市民と野党の共闘」勢力の勝利に貢献します
相次ぐ金権腐敗や不祥事、民主主義を踏みにじる強権政治、さらにはコロナ対策、物価対策の無為無策などに国民の不満と怒りは高まっています。「市民と野党」がしっかりと共闘を組み、候補者を一本化してたたかえば野党連合政権実現に大きく近づくことができます。

「適法的に成立し、適法的に運用された」と治安維持法を擁護し、治安維持法犠牲者への謝罪も賠償も拒否する自公政権に代わって、国賠同盟の国会請願に賛同する議員が多数を占める政権ができるならば、私たちの目標実現に大きく近づくことができます。

来るべき国政選挙では、「市民と野党」の統一候補および国賠同盟の目的を支持し協力してくれる政党と候補者が一人でも多く当選できるように全力を尽くします。

⑤ 会費の100%納入をめざします
会員のみなさんのご協力で2021年度会費の納入率は75%となりました。ひきつづき100%納入実現をめざします。

会費は一般会員が年4,000円、夫婦会員年6,000円で分割納入も可能です(一般会員月額340円、夫婦会員月額500円)。7月に請求書と郵便振込用紙を発送しますので納入をよろしくお願いいたします。

⑥ 県本部および支部体制の強化
すでに述べてきたように、県本部体制の充実強化は緊急の課題です。

体制強化にあたっては、

*ジェンダー平等の促進(女性役員の増員)

*世代継承、若返りの促進

*地域的バランスの確保

*機関紙、財政の実務体制の強化

を念頭に、新しい人材の養成、発掘につとめます。

支部体制の整備、強化では、①役員会の定期開催、②支部会議又は支部総会の開催、③支部としての会費集め、④「支部ニュース」の発行などができるよう努力します。

⑦ 映画『伊藤千代子の生涯』第2次上映運動
参議院選挙後、映画『わが青春つきるとも』伊藤千代子の生涯』の第2次上映運動にとりくみます。すでに取り組みが始まっている八代市、天草市を最優先に、ひきつづき菊池

市、山鹿市、水俣市、熊本市の2回目などに取り組みます。ただ、上映債券(1本10万円)はあと1本しかありませんので、1、2本追加して購入しなければなりません。その際は同盟員のみなさんにもご協力をお願いするかと思いますがご協力のほどよろしくお願いいたします。

⑧ 全国女性交流会
コロナ禍で中止になっている第31回全国女性交流会が10月、静岡県熱海市で開催されます。女性交流会には県同盟からは久しく参加していませんでしたが、県女性部活動の活性化、強化のためにも今年は何としても代表を派遣できるよう努力します。

⑨ 九州沖縄ブロック交流会
九州沖縄ブロック交流会もここ3年開かれていません。コロナ第7波も言われる中、開催するかどうか、開催するとした場合、どういう形式、内容にするかも含めて中央本部及び各県本部と検討します。

22年度県本部総会のお知らせ

日時：8月20日(土)午後2時より

会場：くまもと県民交流館パレア 会議室7(10階)

記念講演：『治安維持法成立から100年ー21世紀を

真に人権と平和の世紀にするために』

講師：藤田廣登氏(映画『伊藤千代子の生涯』原作者)

ここ2年間コロナの感染拡大で総会を開けず、文書提案で議案を承認していただけてきました。今年こそは開催を意気込んでいますが、熊本も再び感染が拡大しています。予断を許しませんが、開催を前提に準備を進めていきます。ご予定の程、よろしくお願いいたします。

講師の藤田氏は映画『伊藤千代子の生涯』の上映運動で全国を飛び回っています。映面上映のことも含めて、治安維持法と弾圧の実態の理解と同盟運動の意義を学習するうえで最適の人です。多くの皆さんの参加を期待しています。

映画『伊藤千代子の生涯』

感想がその後も届いています。「紹介します。

これまでの人生の中で数多くの映画を観てきたが、これほど感動した映画は他に記憶がない。《真実の力》がもつ偉大さを改めて痛感させられた。

特高による激しい拷問、『転向するなら釈放する』の懐柔策―しかし、千代子は決して屈しなかった。戦争反対、主権在民の旗をかかげ、民衆の幸せのため闘いぬく、この私の決意は決して変わらない―千代子のその凛とした姿を見て、胸が震えた。そして、想ったのは若き千代子を支えたものはなんだったのか、大学の「社研」で学んだマルクスの文献など「科学的社会主義」の学習が彼女の確信を強めたことは映画を観ていてもよくわかる。

この感動的な映画製作に尽力された全ての関係者の皆さんに心からの感謝を申し上げます。

最後に政府に対して、「治安維持法の犠牲者に未だになんらの謝罪と賠償もしていないことに厳しい反省を、そして即刻、全ての犠牲者への謝罪と賠償の実行」を断固要求します。
(79歳・男性)

コラム

映画『伊藤千代子の生涯』で多くの人に感動を与えた、獄中での団結の威力を見せようと、ロシア革命記念日に一斉に『赤旗の歌』を大合唱するシーンがあります。

映画にも登場する原菊枝著の『女子党员獄中記』に権力に気づかれずに準備した様子が生き生きと描かれています。「ロシア××記念日に××の1番を歌って、××党万歳を3唱する」をやつてのけた。驚くばかりです。

ところでなぜ『インターナショナル』ではなく『赤旗の歌』なのかなと戦後生まれの私は疑問が生まれました。

『インターナショナル』は、1871年パリコムミュンが崩壊し、亡命先で書いた詩を1888年に曲が付き、歌い継がれてきました。『赤旗の歌』は1889年イギリスの労働運動の中で作られました。

日本にはまず『赤旗の歌』が1921年に入ってきて、『インターナショナル』はその翌年1922年に歌いだされたようです。どちらも100年の歴史を持つ革命歌としてこれからも大事に歌い継いでいきたいものです。映画を思い出しながら千代子ら犠牲者を偲んで口ずさんでみませんか。
(関根)